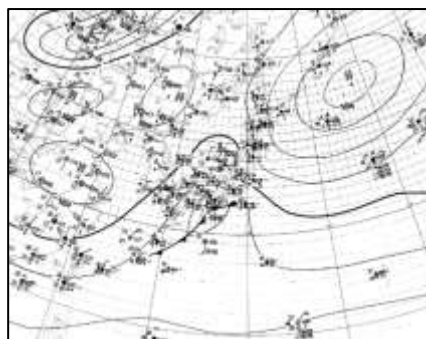


# 1992年 10月8日～9日 南岸低気圧

## 1. 気象経過

10月8日21時には日本海には発達中の低気圧があつてほぼ停滞していた。また、紀伊半島の南海上に前線を伴った低気圧が発生し、発達しながら北東進していた。一方千島近海には高気圧があつて東日本に張り出しており、このため、南岸低気圧は、東海沖を抜ける頃から次第に北北東に進路を変え始めた。中心が近づき始めた9日未明から明け方にかけて、東京湾から石廊崎付近にかけて、低気圧の中心付近に吹きこむ北東風と低気圧前面の南東風による風向の異なるライン(シア)が顕在化した。このライン沿いに雨雲が発達し、石廊崎測候所では、低気圧近傍となった4時56分までの1時間に73.5mmの非常に激しい雨を観測した(アメダス値としては正時毎に少数以下切り捨てで観測されるため最大値は5時までの1時間72mm(右図)となる)。



1992年10月8日21時地上天気図 1992年10月9日4時30分レーダー

## 2. 大雨の原因、特徴

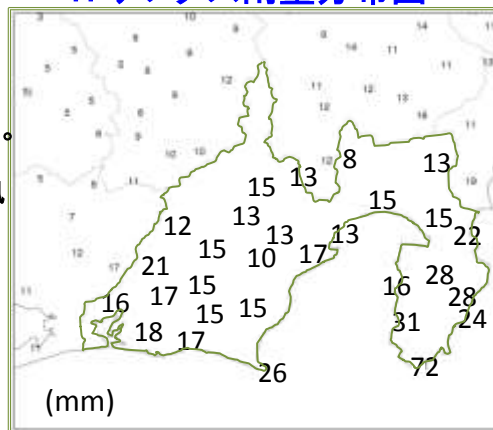
南岸低気圧の場合、沿岸部を中心に短時間強雨となる場合があるが、伊豆東海岸付近で、線状分布となって大雨となる事例は、典型的なパターンの一つである(類似例1991年9月11日～14日、2003年11月29日～30日)。低気圧がなくとも、同様な条件の風の場となれば、大雨となることもある。

## 3. 被害概要

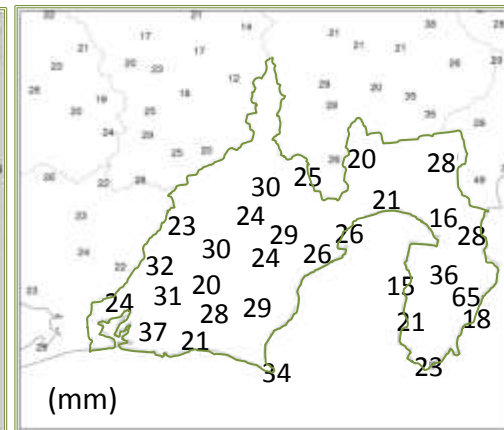
	床上 浸水 (棟)	床下 浸水 (棟)	全壊 (棟)	半壊 (棟)	一部 損壊 (棟)	死者 行方 不明 者(人)	重傷 者(人)	軽傷 者(人)	崖崩 れ(所)	道路 陥没 (所)	橋よ り(所)	河川 氾濫 (所)	砂防 決壊 (所)	鉄道 不通 (所)
全県	5	97	0	0	2	0	0	0	7	33	2	64	0	0
中部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
西部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
東部	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-
伊豆	5	97	0	0	2	0	0	0	-	-	-	-	-	-

被害数は、静岡県 平成4年における災害の状況による

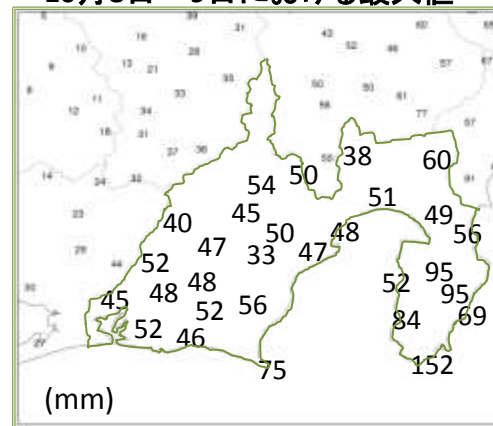
## 4. アメダス雨量分布図



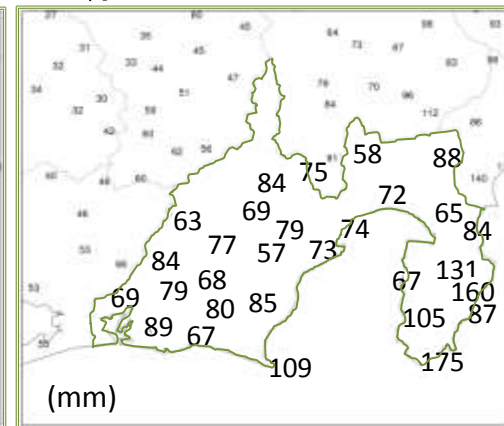
アメダス1時間降水量(正時毎)  
10月8日～9日における最大値



アメダス 日雨量  
10月8日

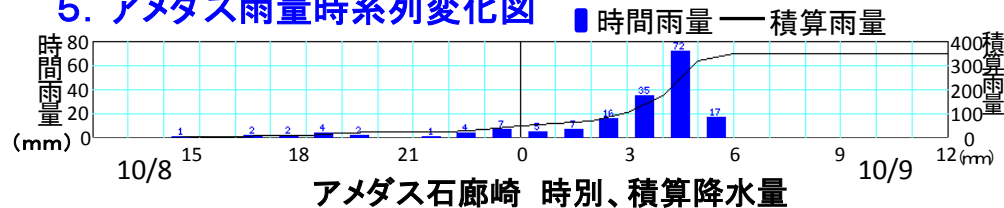


アメダス 日雨量  
10月9日



アメダス 3日間雨量  
10月7日～9日

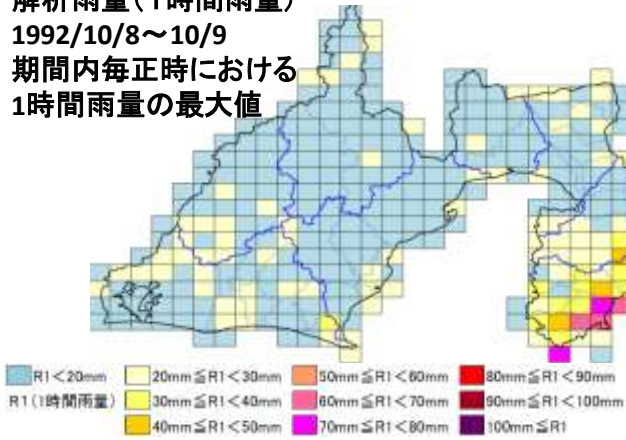
## 5. アメダス雨量時系列変化図



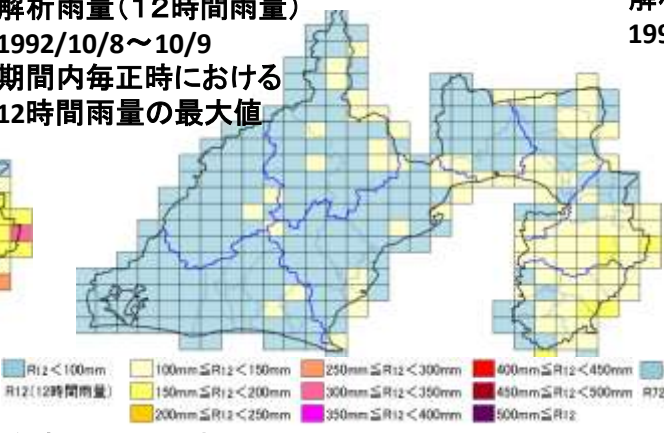
アメダス石廊崎 時別、積算降水量

# 6. 解析雨量分布図

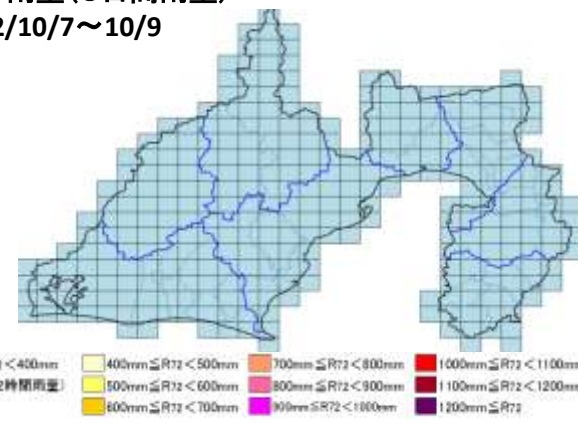
解析雨量(1時間雨量)  
1992/10/8~10/9  
期間内毎正時における  
1時間雨量の最大値



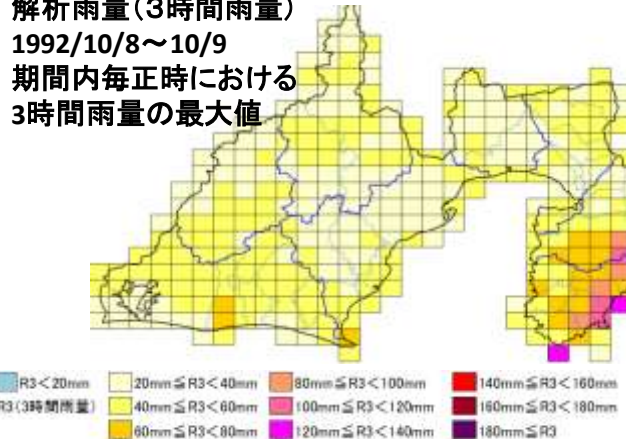
解析雨量(12時間雨量)  
1992/10/8~10/9  
期間内毎正時における  
12時間雨量の最大値



解析雨量(3日間雨量)  
1992/10/7~10/9



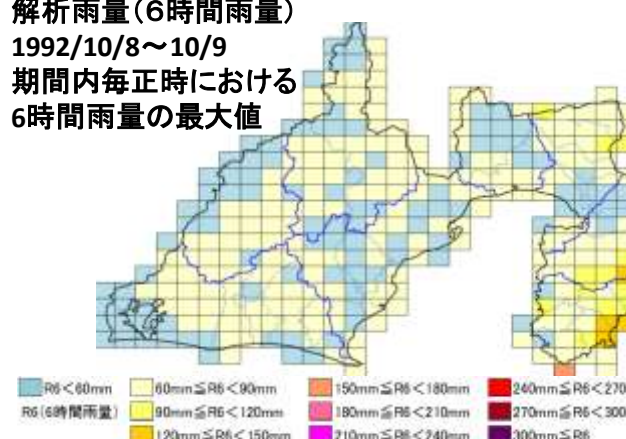
解析雨量(3時間雨量)  
1992/10/8~10/9  
期間内毎正時における  
3時間雨量の最大値



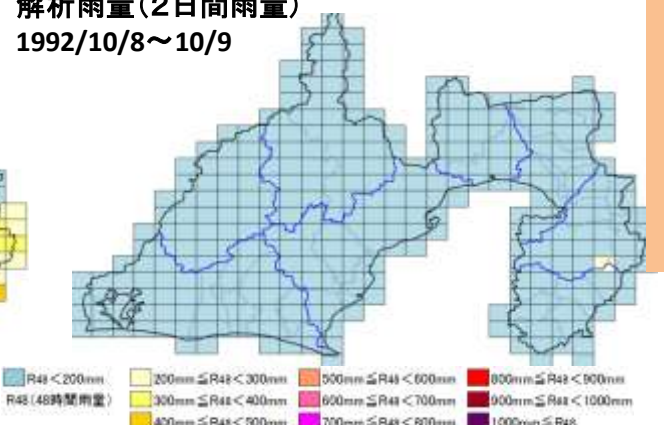
解析雨量(24時間雨量)  
1992/10/8~10/9  
期間内毎正時における  
24時間雨量の最大値



解析雨量(6時間雨量)  
1992/10/8~10/9  
期間内毎正時における  
6時間雨量の最大値



解析雨量(2日間雨量)  
1992/10/8~10/9



# 7. 床上、床下浸水被害分布図 (市町毎)



被害数は、静岡県 平成4年における災害の状況による

# 解析雨量と浸水害分布図からわかる大雨の特徴

南岸低気圧による伊豆東海岸側の大 rainfall 分布の典型的な事例である。今回は低気圧が順調に移動したため、シアーの停滞期間が短く、短時間強雨で終わった。